



第144期救急科を実施しました

[期間] 令和3年5月12日（水）から6月29日（火）まで
35日間

[会場] 埼玉県消防学校
埼玉医科大学総合医療センター
所属消防本部

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任教
育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 25消防本部（局）80名

外傷訓練



內因訓練



屋外訓練



産婦人科救急訓練



総合医療センターでの講義



ドクターヘリ見学にて全体写真



上尾市消防本部 清野 篤 消防士長 * 第1小隊総代

修了しての感想

コロナ禍で大変な中、第144期救急科の学習の場を作っていただき、所属、学校関係者、教官その他関係者の皆様、本当にありがとうございました。コロナ感染防止のために、学生と学校関係者が一つになって取り組み、学生80名が同じ目標に向かっていけたことは良かったと思いました。

救急科では多くのことを学びました。これから所属に戻り、さらに上を目指し、傷病者第一の活動ができる隊員になっていきたいです。



後輩へのメッセージ

救急の現場はとても大変だと思います。傷病者の観察、判断や病院選定も短時間でしなくてはなりません。やはり知識がとても大切です。

救急科で学び、教官からたくさん知識や経験を吸い取って、自分の武器を増やしてください。

吉川松伏消防組合消防本部 水村 裕一郎 消防副士長 * 第2小隊総代

修了しての感想

第144期救急科全80名無事に修了することができました。コロナが収束しない中で担当教官をはじめ、講師の方々のおかげで1人の感染者も出ませんでした。ありがとうございます。

消防関係の講師及び埼玉医科大学総合医療センターの先生方の授業はとても分かりやすく、今まで疑問に思っていたことが解決できました。この知識、経験を救急隊員になって生かしていきたいと思います。



後輩へのメッセージ

救急に興味を持ってください。傷病者がなぜこのような痛みを訴えているのか？答えは一つじゃないかもしれませんが。その傷病者を適切な病院に搬送するためには病態の判断をしっかりと行わなければなりません。そのための知識と経験がなければなにもできません。

そのために救急科があり、学べる環境が揃っています。知れば知るほど奥の深いものなので疑問があればどんどん質問して学んでください。

羽生市市消防本部 平井 秀一 消防副士長 * 第1小隊副総代

修了しての感想

新型コロナウイルス感染拡大の中、この第144期が1人として感染者を出すことなく終了できたこと、万全な感染対策をしていただいた学校関係者、また埼玉医科大学総合医療センターの方々に感謝申し上げます。

副総代として、思い出に残るよう仲間との時間を大切にできるように考えていこうと思っていましたが、80人と関わる時間は短く難しいものでした。しかし、自分たちの先導である教官の方々が自分たちの経験と知識を工夫して、座学と実技を楽しく学べるよう考えていただき、難しい救急も自然と楽しくなり、興味を持ち、もっと勉強したい、学びたいと思うようになりました。

スイッチのオンオフ、やるときはやる、そのことを忘れずに、傷病者のため、日々の訓練を大切に、これからの消防人生に活かしていきたいと思います。



後輩へのメッセージ

コロナ禍でいろいろ制約は多いと思いますが、救急科で出会えた仲間との時間を大切にしてください。そして、救急に対する意識が入校した時と修了した時でどう変わったか、その気持ちはこれからの消防人生において大切なものになりますので、考えてみてください。教官の方々が経験・知識を熱心に指導してくれ、埼玉医科大学総合医療センターでも救命に関わる方々が工夫してわかりやすく教えてくれます。積極的に知識を吸収しようとする意識を大切にしてください。必ず知識とスキルが繋がると思える瞬間がありますので、それを楽しんでみてください。

伝えたいことがたくさんあり、うまくまとまりませんが、自分たちの学べる環境に感謝しながらがんばってください。

川越地区消防局 瀬水 和樹 消防副士長 * 第2小隊副総代

修了しての感想

新型コロナウイルス感染拡大の中、1人も感染者を出すことなく、80人の学生全員が救急科を無事に終わられたことに感謝します。

救急科では多くのことを学びました。人を観る力、接遇、多くの知識等です。これらは消防官である以上必要なことだと思います。傷病者は救急車を選べません。ハズレの救急隊が来たと思われぬよう、所属に戻っても傷病者を第一に考



えて活動できる隊員であり続けます。

後輩へのメッセージ

救急科では以上の五箇条を心得に日々学び活動しました。

- 一つ、高い人間力を身につけよ！
- 一つ、分隊とともにあれ！
- 一つ、常に学べ！
- 一つ、ON/OFFのスイッチを持て！
- 一つ、救急に興味を持て！

消防隊、救助隊関係なく消防官である以上傷病者を観るために必要な知識、技術を学ぶ場所です。自己啓発の気持ちを持ち、40日間の教育訓練に励んでください。